

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学概論	日本語教育の世界	2	小河原 義朗	3	前期火曜日3講時	
日本語教育学概論	日本語教育の多様性 (実践)	2	島崎 薫	4	後期火曜日3講時	
日本語教育学基礎講読	日本語教育文法	2	小河原 義朗	4	後期月曜日5講時	
日本語教育学基礎講読	接触場面の日本語	2	島崎 薫	3	前期水曜日2講時	
日本語教育学各論	学習者の口頭能力を考 える	2	早矢仕 智子	集中(6)	集中講義	
日本語教育学各論	日本語教育方法論研 究演習Ⅲ	2	高橋 亜紀子	集中(5)	集中講義	
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラ ムの評価	2	小河原 義朗	6	後期火曜日4講時	
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原 義朗	5	前期金曜日2講時	
日本語教育学演習	日本語学習者との交流 学習と日本語教材分析 を通した「文化」の学び	2	澤邊 裕子	5	前期木曜日2講時	
日本語教育学演習	日本語教育における質 的調査法	2	講師(非)	6	後期水曜日2講時	
日本語教育学実習	日本語コースのデザイ ンと運営①	2	小河原 義朗・島崎 薫	5	前期水曜日3講時4講時	
日本語教育学実習	日本語コースのデザイ ンと運営②	2	小河原 義朗・島崎 薫	6	後期水曜日3講時4講時	

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB32308, 科目ナンバリング：LHM-LIN205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育の世界
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Teaching of Japanese as a Second Language
3. 授業の目的と概要：日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の声を通じて全体を概観する。同時に、普段当たり前のように使っている日本語、そして実際に生活している日本社会を外から俯瞰して眺め、社会における日本語教育の意義・役割について理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Japanese language teaching and opportunities to see Japanese language communication objectively to help students learn about the significance of teaching Japanese in our society.
5. 学修の到達目標：(1)日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
(2)日本語教育を通して日本語や日本社会を客観的に捉えることができる。
(3)日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand what is Japanese language teaching
 2. see Japanese society objectively through Japanese language teaching
 3. understand the role of Japanese language teaching in society and explain it in their own words
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 日本語教育を取り巻く社会情勢
 2. 日本語教育とは
 3. 日本語教育と日本語
 4. 日本語教師の仕事
 5. 日本語教育の方法1
 6. 日本語教育の方法2
 7. 日本語教育の現場を知る1
 8. 振り返り1
 9. 日本語教育の現場を知る2
 10. 振り返り2
 11. 日本語教育の現場を知る3
 12. 振り返り3
 13. 日本語教育の現場を知る4
 14. 振り返り4
 15. まとめ、日本語教育の役割※4回の「日本語教育の現場を知る」では、実際の日本語教育や支援の各現場からゲストスピーカーを招く予定である。そのため、全体の流れも変更になることがある。
8. 成績評価方法：

レポート40%・課題60%
9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。
10. 授業時間外学習：指定された資料を読んだり、ビデオを視聴したりする。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB42308, 科目ナンバリング：LHM-LIN205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育の多様性（実践）
2. Course Title (授業題目)：Diversity of Japanese Language Education (Practice)
3. 授業の目的と概要：現在世界で約 400 万人の人たちが日本語を学んでおり、その増加に合わせて学習者の文化背景やニーズ、レディネスなどの多様化が進んでいる。この授業では、様々な背景や目的を持つ学習者を取り上げ、彼らについての理解を深めるとともに、そういった多様な学習者のためにどのようにコースデザインを行うべきかを知り、コースデザインに関する基礎知識を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Nowadays 4 million people are learning Japanese all over the world. The more people are learning Japanese, the more diverse learners' cultural back grounds and needs, readiness become. In this course, students will develop their understanding of learners' diversity --cultural backgrounds and learning purpose, and gain basic knowledge of course design for these diverse learners.
5. 学修の到達目標：・日本語学習者の多様性について理解を深める
・多様な日本語教育の現場についての理解を深める
・コースデザインに関する基礎的な知識を身につけ、基本的なコースデザインをすることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-enhance their understanding of diversity of Japanese language learners
-explore diversity of Japanese language education
-gain fundamental knowledge of course design and be able to design a course
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 インTRODakション
第2回 多様な日本語学習者
第3回 日本語学習者を知る①（外国人労働者）
第4回 日本語学習者を知る②（外国にルーツを持つ子供）
第5回 日本語学習者を知る③（生活者としての外国人）
第6回 日本語学習者を知る④（中国帰国者）
第7回 日本語教師という仕事
第8回 日本語教師を知る①
第9回 日本語教師を知る②
第10回 コースデザインとは①
第11回 コースデザインとは②
第12回 《グループ活動》コースデザイン
第13回 コースデザインへの相互コメント、修正
第14回 《グループ活動》コースデザイン
第15回 コースデザインの発表、まとめ
8. 成績評価方法：
授業での課題 30%、最終レポート 40%、授業への参加態度 30%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
No textbooks will be used. References are handed out at class.
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
前期に実施されている日本語教育学概論を履修し、単位を取得していることがこの科目の履修条件です。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

semester：4 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB41504, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育文法
2. Course Title (授業題目)：Pedagogical Grammar in Japanese language
3. 授業の目的と概要：日本語を教えるために必要な日本語文法の基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students understand the basic knowledge of Japanese language grammar for teaching Japanese and consider it relating to Japanese teaching practice.
5. 学修の到達目標：(1)日本語教育ための文法の基礎を理解し、説明できる。
(2)基礎的な文法知識を使って日本語を分析することができる。
(3)文法を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
 1. understand the basic knowledge of Japanese language grammar for teaching Japanese
 2. analyze Japanese language by using grammatical knowledge
 3. consider it relating to Japanese teaching practice
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業実施方法（授業の実施形態：対面）
 1. イントロダクション
 2. 品詞(1)
 3. 品詞(2)
 4. 名詞文(1)
 5. 名詞文(2)
 6. 名詞文(3)
 7. 形容詞文(1)
 8. 形容詞文(2)
 9. 動詞文(1)
 10. 動詞文(2)
 11. 動詞文(3)
 12. 活用(1)
 13. 活用(2)
 14. ムードの表現
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：
期末テスト 30%・クイズ 30%・課題 40%
9. 教科書および参考書：
『みんなの日本語 初級1』スリーエーネットワーク
『Situational Functional Japanese 1』凡人社
10. 授業時間外学習：毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。事前課題があるときは、期日までに提出し、授業に持参すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

semester：3 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LB33209, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：接触場面の日本語
2. Course Title (授業題目)：“Japanese” in contact situations
3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語学習者とのコミュニケーションを通して接触場面における「日本語」について理解を深める。日本語学習者との会話セッションへの参加経験をもとに、論文の購読や講義、他の受講生とのディスカッションをしながらコミュニケーションについて、母語話者や日本語学習者が使用する日本語について、接触場面での会話について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will develop students' understanding of “Japanese language” in contact situations. Students will participate in conversation sessions with Japanese language learners. Based on their experience of participation, they will consider about communication, “Japanese language” learners and native speakers use, and interactions in contact situations, reading related papers, listening to lectures, and discussing with other students.
5. 学修の到達目標：・コミュニケーションとは何かについて自分の言葉で説明できる
・日本語学習者や母語話者の日本語の特徴について説明することができる
・接触場面におけるインターアクションの特徴について説明することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
 - ・describe what communication in in their own words;
 - ・understand and explain the characteristics of Japanese language learners and native speakers use;
 - ・understand and explain the characteristics of interaction in contact situations.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 イントロダクション、「みんなのひろば」への参加
 - 第2回 コミュニケーションとは
 - 第3回 コミュニケーションモデル
 - 第4回 コミュニケーション能力とは
 - 第5回 学習者の日本語：誤用①
 - 第6回 学習者の日本語：誤用②
 - 第7回 学習者の日本語：フィードバック
 - 第8回 母語話者の日本語：フォリナートーク、やさしい日本語①
 - 第9回 母語話者の日本語：フォリナートーク、やさしい日本語②
 - 第10回 母語話者の日本語：先輩の工夫
 - 第11回 接触場面：共話
 - 第12回 接触場面：会話の諸相①
 - 第13回 接触場面：会話の諸相②
 - 第14回 接触場面：コミュニケーションストラテジー
 - 第15回 まとめ
8. 成績評価方法：

授業への参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：6 単位数：2

担当教員：早矢仕 智子

コード：LB98837, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：学習者の口頭能力を考える
2. Course Title (授業題目)：Understanding oral proficiency of Japanese learners
3. 授業の目的と概要：日本語学習の4技能の中の「話す」能力について、音声データ（日本語学習者会話データベース等）を分析しながら、学習者の口頭能力の習得過程を理解する。学習者の口頭能力の向上を促進し、支援するための教師の発話、テキストや教材、試験の内容等について、様々な検討を加えながら、学習者のニーズに適う会話授業とは、さらには、コミュニケーション環境とはどのようなものかを考えていく。なお、授業において、「OPI (ACTFL Oral Proficiency Interview)」や「やさしい日本語」を取り扱うが、問題解決のために批判的に検討する姿勢を持つてほしい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, focusing on “speaking” ability among four skills of learning Japanese, students will understand the learners’ process of acquiring oral proficiency through analyzing speech corpus. This course offers an opportunity to think about effective conversation class and communication environment meeting learners’ needs by considering teacher’s talks, textbooks and materials, and exams in order to promote learners’ oral proficiency. In class, students are encouraged to think critically about “The ACTFL Oral Proficiency Interview (OPI)” and “Plain Japanese.”
5. 学修の到達目標：・学習者の様々な口頭能力の諸相を理解し、知識を深めることができる。
・口頭能力の評価基準や習得方法を理解し、実習や実践等の活動に運用することができる。
・学習者にとって、豊かなコミュニケーションを保障する教室活動や社会環境とはどのようなものか、自分のことばで説明できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is as follows.
 - 1) To be able to better understand various aspects of learners’ oral proficiency.
 - 2) To be able to practically apply the evaluation criteria and acquisition process of oral performance learned in class to teaching practice.
 - 3) To be able to explain what the effective classroom activities and social environment would be to ensure abundant communication of the learners.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 「話すこと」会話・対話・雑談
 3. 学習者の「話す」能力とは
 4. OPI (ACTFL Oral Proficiency Interview) の理解
 5. OPI のレベル判定の尺度と基準
 6. OPI の実例（超級・上級）の検討
 7. OPI の実例（中級・初級）の検討
 8. 発話における非言語、あいづち、フィラー、沈黙について
 9. 会話授業と教材の検討：質問
 10. 会話授業と教材の検討：ダイアローグ
 11. 会話授業と教材の検討：ロールプレイ
 12. 「やさしい日本語」の理解
 13. 「やさしい日本語」の検討
 14. 課題発表と振り返り①
 15. 課題発表と振り返り②
8. 成績評価方法：
レポート 40%・課題 30%・授業参加度 30%
9. 教科書および参考書：
日本語学習者会話データベース 国立国語研究所 <https://mmsrv.ninjal.ac.jp/kaiwa/>
授業内で指定、または配布する。
10. 授業時間外学習：指定された資料を読んだり、音声データを視聴したりする。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：5 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB98822, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育方法論研究演習Ⅲ
2. Course Title (授業題目)：Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)
3. 授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In recent years, the number of foreign residents has increased significantly, and at the same time, the number of foreign children whose mother tongue is not Japanese is also increasing in Japanese schools. In this class, students will develop their understanding of foreign children who need Japanese language supports and gain fundamental knowledge of Japanese language teaching and learning support for them.
5. 学修の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。
2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。
3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-enhance their understanding of the current situation and issues of education for foreign children
- understand and describe the difficulties in life and learning of children
-gain fundamental knowledge of Japanese language teaching for children and be able to support them
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (1)
 3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (2)
 4. 子どもの生活や学習上の困難点 (1)
 5. 子どもの生活や学習上の困難点 (2)
 6. 子どもへの日本語支援の方法 (1) 受け入れの準備
 7. 子どもへの日本語支援の方法 (2) サバイバル・日本語基礎
 8. 子どもへの日本語支援の方法 (3) 日本語指導と教科の統合学習
 9. 子どもへの日本語支援の方法 (4) 教科の補習
 10. 子どもへの日本語支援体験 (1)
 11. 子どもへの日本語支援体験 (2)
 12. 子どもへの日本語支援体験 (3)
 13. 体験の振り返り
 14. 教師の役割
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%
9. 教科書および参考書：
文部科学省 (2019)『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
*授業では、子どもの支援を実際に行うことを予定していますが、諸事情により実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

semester：6 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB62405, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースカリキュラムの評価
2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Course evaluation
3. 授業の目的と概要：日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the matters to be considered in deciding of evaluation method for language course. Through activities and exercises, students will learn to apply the backward design to Japanese language course.
5. 学修の到達目標：(1)言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。
(2)様々な評価の方法について理解し、説明できる。
(3)日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the following:
 - 1.basic principles of evaluation in language teaching
 - 2.various methods of evaluation
 - 3.backward design in Japanese language course
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業実施方法（授業の実施形態：）
 1. イントロダクション
 2. コースデザイン
 3. コースカリキュラムの評価(1)
 4. パフォーマンス評価
 5. コースカリキュラムの評価(2)
 6. ルーブリック評価(1)
 7. ルーブリック評価(2)
 8. コースカリキュラムの評価(3)
 9. 伝統的評価と代替的評価
 10. テストによる評価(1)
 11. テストによる評価(2)
 12. スタンダードの分析(1)
 13. スタンダードの分析(2)
 14. ポートフォリオ評価
 15. バックワード・デザインとまとめ
8. 成績評価方法：
レポート30%・課題40%・授業参加度30%
9. 教科書および参考書：
授業内で指定、または配布する。
10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LB55211, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要： 学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the contents and methods to improve oral language skills in the Japanese language classroom. Through activities and exercises, students will learn how to plan, practice and evaluate oral communication classes.

5. 学修の到達目標：(1)話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2)目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:

1. understand various class activities to improve speaking skills

2. create effective class activities and evaluate them through Japanese course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. コミュニケーション活動の実際

3. コミュニケーション活動の分析

4. 教材作成1

5. 模擬授業の実施1

6. 模擬授業の実施2

7. 授業改善・評価1

8. 教材分析1

9. 模擬授業の実施3

10. 模擬授業の実施4

11. 授業改善・評価2

12. シラバスの作成1

13. シラバスの作成2

14. 教案作成1

15. 教案作成2

8. 成績評価方法：

レポート30%・課題40%・授業参加度30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：澤邊 裕子

コード：LB54213, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語学習者との交流学习と日本語教材分析を通じた「文化」の学び
2. Course Title (授業題目)：Learning about culture through collaborative learning with Japanese language learners and analysis of Japanese language teaching materials
3. 授業の目的と概要：本授業の目的は、日本語学習者との交流学习とインタビュー活動を通して、文化に関する考え方を理解し、その多様性について自分の考えをまとめ、発表する力を養うことである。自分の関心があるテーマを設定し、インタビューにおいてデータを収集し、インタビューを実施し、結果をまとめる。さらに、日本語教材における文化の表象についても検討し、学期末にはその考察結果を踏まえたオリジナルの文化コラムを執筆する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to understand attitude about “culture” through collaborative learning and interview research, and to develop the students’ ability to present the opinion about the varieties of culture. Students will conduct an interview research, collect data depends on their theme, and establish their own idea about culture thorough analyzing the results. After the presentation in the classroom, students will analyze the culture representation in Japanese language teaching materials, and write up a report at the end of the semester.
5. 学修の到達目標：・日本語教材にあらわれる文化について自分の考えをもつ。
・日本語学習者が持つ異なる文化背景や考え方への理解を深める。
・インタビュー調査の方法を習得する。
・調査を通じてわかったことを、論理的に説明できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
 - establish their own idea about culture representation in Japanese language learning materials.
 - enhance their understanding of Japanese language learners’ different cultural background and thought
 - acquire skills to conduct interview research
 - explain results from the interview research logically
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション、文化とは何か
 2. 日本語学習者が書いた「文化」に関する文章を探す
 3. 日本語学習者の「文化」に関する文章に対する自分の考えを書く
 4. 日本語学習者の「文化」に関する文章に対する自分の考えの発表
 5. 日本語学習者がもつ「文化」に対する問いを設定する
 6. 日本語学習者に対するインタビュー調査の準備
 7. 日本語学習者との交流学习
 8. 日本語学習者に対するインタビュー調査の実施
 9. インタビュー調査の結果をまとめる
 10. インタビュー調査の結果の発表とディスカッション①
 11. インタビュー調査の結果の発表とディスカッション②
 12. 日本語教材の中にあられる文化を探す
 13. 初級日本語教材の中にあられる文化に関するディスカッション
 14. 中・上級日本語教材の中にあられる文化に関するディスカッション
 15. 振り返りとまとめ
8. 成績評価方法：

授業での課題 30%、発表 30%、期末レポート 40%
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.
10. 授業時間外学習：履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことも強く期待されます。Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB63212, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育における質的調査法
2. Course Title (授業題目)：Qualitative research in Japanese Language Education
3. 授業の目的と概要：学習者が持つ文化背景や考え方についての理解を深める質的研究の方法を学ぶ。研究計画、実施、そして論文作成に關しての基礎的な知識を得る。授業の中では、先行研究のまとめ方、問いの立て方、インタビュー、観察といった研究方法について学び、実際に自身の研究計画を作成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students learn the method of qualitative research in order to understand Japanese language learners' backgrounds. Students will earn fundamental knowledge of process of qualitative research such as creating research a plan, conducting a qualitative research and writing up a paper. In this course, students will review previous studies, make research questions, get to know research methodologies such as interview and observation. At the end, they will complete their own research proposal.
5. 学修の到達目標：・質的研究法の理論的背景、強みと弱み、倫理的課題を理解した上で、質的研究法を用いた研究計画を立てることができる。
・研究論文の要素、構成、慣習を理解し、論文作成のための基礎的な知識を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, successful students will be able to:
-Understand theoretical background, strengths/weaknesses and ethical issues of qualitative research and make a research plan by using them
-Gain the fundamental knowledge of elements, structure and custom of research paper.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 インTRODakション、質的研究とは①
第2回 質的研究とは②
第3回 研究の切り口
第4回 問いを立てる
第5回 序章とは
第6回 先行研究をまとめる（実際の論文を読む）
第7回 先行研究をまとめる（先行研究を収集する）
第8回 先行研究をまとめる（批判的に読む）
第9回 先行研究をまとめる（先行研究の章を書く）
第10回 インタビュー
第11回 観察
第12回 研究方法の検討①
第13回 研究方法の検討②
第14回 研究倫理
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
太田裕子（2019）『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ -研究計画から論文作成まで-』東京図書。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小河原 義朗. 島崎 薫

コード：LB53312, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースのデザインと運営①

2. Course Title (授業題目)：Design and conduct a Japanese language course (1)

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、多様な日本語学習者に対応する多様な日本語コースのあり方について学び、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、実施する力を養うことを目的とする。前期は様々な日本語コースに参加し、多様な日本語コースについて知るとともに、その日本語コースで活動をデザインし、実践する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through teaching practicums in spring and fall semesters, students will explore a variety of Japanese language courses for diverse language learners and acquire skills in designing a language course for learners' individual needs, readiness and situations. In spring semester, students will observe and participate in various language courses and get to know diversity of language classes. Then they will design class activities and conduct them.

5. 学修の到達目標：・日本語のコースの多様性を知る

- ・様々な授業内活動について知る
- ・目的に合わせて簡単な活動をデザインすることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- ・understand variety of language courses;
- ・understand variation of class activities;
- ・design a small class activity according to purposes

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：コースデザインとは①
- 第3回：コースデザインとは②
- 第4回：多様な授業内活動①
- 第5回：多様な授業内活動②
- 第6回：多様な授業内活動③
- 第7回：授業案の作成①
- 第8回：授業案の作成②
- 第9回：授業案の作成③
- 第10回：授業案の作成④
- 第11回：実践と振り返り①
- 第12回：実践と振り返り②
- 第13回：実践と振り返り③
- 第14回：実践と振り返り④
- 第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に授業見学を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時, 後期 水曜日 4 講時

Semester : 6 単位数 : 2

担当教員：小河原 義朗, 島崎 薫

コード：LB63312, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースのデザインと運営②
2. Course Title (授業題目) : Design and conduct a Japanese language course (2)
3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、多様な日本語学習者に対応する多様な日本語コースのあり方について学び、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、実施する力を養うことを目的とする。後期は、自分たちで日本語コースをデザインし、実践する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Through teaching practicums in spring and fall semesters, students will explore a variety of Japanese language courses for diverse language learners and acquire skills in designing a language course for learners' individual needs, readiness and situations. In fall semester, students will design and carry out a course.
5. 学修の到達目標：・コースデザインにおける基礎的な知識を使って学習者自身や学習者の状況に合わせたコースをデザインすることができる
 - ・デザインしたコースを他の学生と協力しながら運用することができる
 - ・自分の実践を振り返り、改善案を提案することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標) : After completion of this course, students are expected to:
 - ・design an appropriate language course for learners by using fundamental knowledge of course design;
 - ・conduct the language course with other students;
 - ・suggest an improvement based on their reflection.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回： イントロダクション
 - 第2回： コースデザインの検討①
 - 第3回： コースデザインの検討②
 - 第4回： カリキュラムの検討①
 - 第5回： カリキュラムの検討②
 - 第6回： 模擬授業と振り返り①
 - 第7回： 模擬授業と振り返り②
 - 第8回： 模擬授業と振り返り③
 - 第9回： 模擬授業と振り返り④
 - 第10回： 模擬授業と振り返り⑤
 - 第11回： 模擬授業と振り返り⑥
 - 第12回： 模擬授業と振り返り⑦
 - 第13回： コースデザインの評価①
 - 第14回： コースデザインの評価②
 - 第15回： まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：授業外の時間に教壇実習を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。
 11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：なし